2020年度オープンスペース‘AYUMI’事業報告

（生活介護事業・就労継続支援事業B型・日中一時支援業・短期入所事業）

オープンスペース‘AYUMI’施設長　　久永　洋

【生活介護事業】※別紙出勤率記載

・新規利用者1名（2020年4月～奈良養護学校卒業生1名）

・退所利用者　なし

軽作業班

●利用者　13名（うち2名就労継続支援事業B型）　職員8名（パートタイム勤務も含む）

利用者は、奈良養護学校卒業生より1名増員してスタートした。作業活動においては、内職作業を中心に実施する。コロナウイルスの関係で作業の資材が入りにくいということもあったが、その分時間の空いた場合は、いろいろなグループ活動（運動や制作等）を取り入れ、内職以外の活動も積極的に実施した。

作業と余暇の組み合わせをしながら、やりがいや達成感、楽しみにも繋げ、前向きに元気に日々の活動に取り組む姿があった。

手工芸

●利用者　14名　職員6名（パートタイム勤務も含む）

紙漉きを中心に日中活動を実施する。また、和紙商品（papier）やフェルトボールの作成も引き続き行い、作業の幅を持って活動を実施した。また、作業以外にも個別のスケジュール、環境調整、トークンボード、絵カード等にも力を入れ、集団活動と個別活動のバランスを図る。その中で楽しむ時間やリフレッシュする時間を作り、それぞれ利用者の方のペースを大切にしながら過ごせるよう日中活動を行った。

園芸

●利用者　11名　職員5名（パートタイム勤務も含む）

大幅な作業活動の変更はなく、畑作業や内職作業を中心に活動を実施する。気候によって畑へ出にくい時期やコロナウイルスの関係で内職作業が入りにくい時期はあったものの、都度、作業内容を検討しながら、利用者のやりがい、達成感へ繋げていった。また、施設周りのウォーキングで運動不足を解消し、グループ活動も取り入れながら、お楽しみの時間と作業時間のメリハリを意識できるように実施した。

ワーク

●利用者　4名　職員4名（パートタイム勤務も含む）

　2019年度途中からスタートした個別ワークスペースをそのまま活用し、ワーク班としての作業活動、日中活動をスタートする。少人数グループで活動することにより、利用者一人ひとりの障害特性に応じた個別スケジュール、コミュニケーションカード等を使いながら、内職作業、自立課題、運動等の活動を実施した。日々のスケジュール等を本人が自ら選択、決定出来るよう工夫し、見通しをつけやすくして活動の提供をした。スタート時は少し不安な様子も見られたが、見通しを持ち易くなったことで安心に繋がり、能動的に活動へ参加している姿があった。

【就労継続支援事業B型】※別紙出勤率記載

・新規利用者　なし

・退所利用者　なし

秋篠パン工房

●利用者　11名（うち2名軽作業班所属）　職員4名（パートタイム勤務も含む）

　利用者の減員、増員はなく、2019年度に引き継いだ形でのスタートとなる。コロナウイルスの関係で収益の減少も大きくあったが、販売方法や製造、パンのアイテムにも職員みんなで検討を重ねて工夫していった。その一つとしてあゆみの会利用者のご家族への定期的な注文販売や初めての取り組みでのスタンプカードの導入等で、売り上げの改善も図っていった。また一方では、利用者の出勤率は昨年度に比べると増えており、利用者ひとり一人の仕事へのやりがいや達成感に繋がっていたように感じた。

　例年同様、作業の時間、休憩の時間とメリハリある作業を継続し、スキルアップ、働く意欲の向上に努め、取り組める作業の幅を広げた。また、就労希望者においては、体験から入り、一般就労へとつながった利用者もいた。

【日中一時支援事業】

主にあゆみから一般就労に行った人たちが利用する事業となり、外部の人を受け入れることがなかなかできにくい状況にある。施設から就労していった人たちが、仕事のない日に来所し、作業を一緒にしたり、スタッフに相談したりと多様に利用している。ただし、コロナウイルスの関係で通所を控えていただいたりすることもあった。通所した時には、リフレッシュ出来るよう慣れ親しんだ職員や久々に会う仲間とふれあいを楽しめるよう働きかけた。

【短期入所事業】

　コロナウイルスの関係で緊急対応のみの実施となる。緊急対応としても、ご家族が入院や通院、緊急のレスパイト等を要するものに限定し、感染対策をしながらの事業の実施となった。他施設では、外部の受け入れを制限したりすることも多く、利用者やご家族にとっては思うような利用ができにくく、厳しい面も見られた。

【総評】

　2020年度は、新型コロナウイルスの影響で、短時間通所、分散通所、通所自粛等をしなければならない現状があった。また、日々の作業活動においても、各班活動を主にしながら、集団で集まるプログラムの自粛、各班活動場所での昼食、余暇活動の制限等を行い、感染対策を実施した。さらに、活動場所や車両の消毒、手指消毒等はもちろんのこと、出来る限りでの感染予防対策を実施し感染拡大の防止に努めた。

当初は戸惑う場面も見られたが、段々と柔軟に対応していく利用者の姿が見られたことは良かったように思う。限られた生活の中、限られた活動の中ということで、難しい場面もあったが、職員が工夫しながらわかりやすく利用者へ伝え、理解に繋げていたように思う。一人ひとりにあったコミュニケーション、伝達方法等を日頃から意識している分、わかりやすく伝えることが出来たように思う。イベントや行事、地域交流、研修会等の自粛があり、いつもとは違う1年になってしまったが、何ができるかを皆で考える機会となり、2021年度へ繋げていきたいと思う。

新型コロナウイルスの対応に追われた1年となってしまったが、例年同様、支えあう仲間の関係を築き夫々の生活が楽しく、充実出来るよう日々の関わりや活動をしていった。